

伝統文化研究会 (2024/1/10)

『皇室野史』注釈 ②

本研究会は、昨年に引き続き廣池千九郎著『皇室野史』を検討した。

まず、久禮旦雄客員研究員から「皇室野史が引用せる史料について」と題して、本書に引用・参照された史料がどのようなもので、また廣池が当時の学界の動向をいかに捉えていたか等を考察し、本書の史学史的な位置を明らかにした。

次に橋本富太郎（プロジェクトリーダー）が本書第2章上の事項注釈として、難語や人名を拾い出しそれに注釈をつけて読解の便宜を図った。

以上のことから、研究開始当初の仮説が実証されつつある。すなわち、本書『皇室野史』は、先駆的で優れた視点を持つものであり、廣池の国体観形成上にも重要な位置を占めるが、経済的時間的に余裕が無く、史料収集にも難があった時代であったことが反映され、史料批判や校訂が不十分なところが多い。

このような本書の特徴から、本研究の成果は、現代にも生かされる埋もれた業績の発掘というよりは、時代を先取りしていたことへの評価と廣池千九郎研究への寄与が中心となるだろう。

特に後者に対しては、この注釈事業を完遂することによる意味が大きいため、今後も継続してまいりたい。

（文責：伝統文化研究プロジェクトリーダー 橋本富太郎）